

宮崎支店発

林業大学校で「お金」に関する出張講義

みやざき林業大学校は、全国有数の林業県である宮崎の林業の担い手を育成しています。

宮崎支店農林水産事業では大学校の運営をサポートしており、研修生に対し、延岡支店国民生活事業と合同で講義しました。

大学校で林業に初めて携わる研修生が多いことから、宮崎支店からは林業経営に必要な「お金」の話や資金繰りを考えることの重要性について、延岡支店からは林業におけるビジネスプランのつくり方について説明しました。

3月9日、於：美郷町、参加者：みやざき林業大学校研修生20人



講義の様子。研修生は宮崎県内の事業者への就職をめざしています

近畿地区発

人材マッチングニーズに専門機関と連携

近畿地区は従前より近畿財務局と地方創生に取り組んでいます。

公庫は、コロナ禍で人材が過剰な業種や企業がある一方、農業や食品産業は人材が不足し収穫作業や食品製造に支障をきたしていることを財務局に説明。

課題解決のため、財務局の紹介の下、産業雇用安定センターと、地域における労働力需給安定や、地域経済の持続的成長のために相互に協力することを確認、3月12日、連携協定を締結しました。今後は双方の情報網を活用して業種の垣根を越えて人材マッチングに取り組みます。



調印式兼記者会見。右より、産業雇用安定センター近畿ブロック本部長兼大阪事務所長 片岡伝七氏、近畿財務局長 奥達雄氏、日本公庫特別参与 三田祥弘

盛岡支店発

盛岡駅で活気あふれる若者マルシェ

JR盛岡駅において地元の若手農業法人などによるマルシェ「発見！岩手の若手農業者の味」を岩手県農業法人協会と東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社と共催。

県内の稲作・野菜・畜産などの生産者が新鮮野菜やこだわりの菓子など自慢の商品を消費者に販売しました。初日は消費者との交流に不慣れな参加者もいましたが、徐々に販売のコツを掴み、当初想定していた全体での目標額を上回る売り上げを達成しました。

マルシェは、消費者に、若手の農業者や農畜産物などの魅力を知ってもらうこと、将来を担う若手農

業者に消費者の反応を感じてもらい、今後の経営の気付きを得てもらうことが目的です。

消費者からは「頑張っている若い農業者のパワーを感じました」「コロナ下で販売に苦労している農業者を支援したい」といった応援が、参加者からは「消費者との会話で、商品アイデアが浮かびました」「次回はお客さまの目を引くポイントを工夫します」などの意欲的な声が、寄せられました。

次回マルシェは今年の秋頃に開催を予定しています。3月5日、7日、於：盛岡駅、参加者：岩手県若手農業者11名



参加者同士、横のつながりもできました

業種平均比較シート(例:酪農)

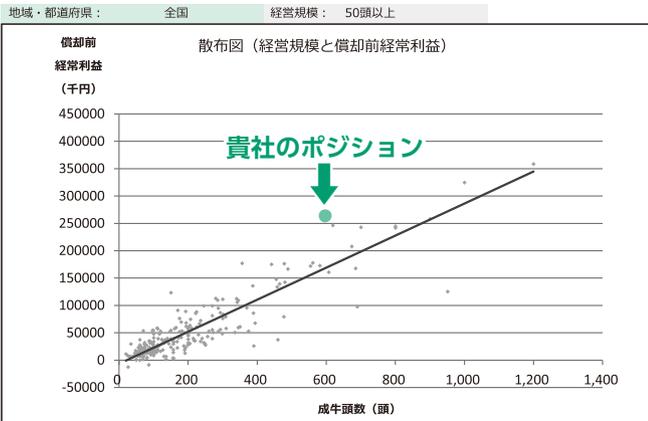
お客さまの決算状況を業種平均(※)と比較して示します

決算年	R01			R01/12(12か月)		R01	
	都府県	経常黒字	構成比	貴社	構成比	経常黒字との比較	構成比
サンプル数	148	101					30
成牛頭数(頭)	181.2	192.2					210.8
売上高	1,373	1,376	100.0%				1,406
売上原価	1,105	1,074	78.0%				1,076
増価増卸高	57	53	3.9%				64
材料費	594	601	43.7%				569
労務費	118	107	7.8%				118
外注加工費	14	15	1.1%				5
燃料動力費	14	15	1.2%				16
賃借料・リース料	16	13	1.0%				8
減価償却費	172	160	11.6%				160
その他(売上原価)	260	235	17.1%				203
他勘定増減高(△)	-111	-99	-7.2%				-35
当期仕入高	37	31	2.2%				42
期末増卸高(△)	-64	-57	-4.1%				-75
売上総利益	267	303	22.0%				330
販売費・一般管理費	266	248	18.0%				270
販売手数料	28	27	2.0%				28
人件費	93	88	6.4%				92
役員報酬	63	62	4.5%				58
賃借料・リース料	4	5	0.3%				5
租税公課	11	11	0.8%				12
減価償却費	34	34	2.5%				34
その他(販売管理費)	96	83	6.0%				101
営業利益	2	54	3.9%				59
営業外収益	52	50	3.7%				45
営業外費用	16	16	1.2%				26
支払利息・割引料	5	3	0.2%				3
経常利益	37	89	6.4%				78
特別損益	-1	-6	-0.4%				-12
税引前当期純利益	36	83	6.0%				66
法人税等	3	5	0.3%				2
税引後当期純利益	32	78	5.7%				64
減価償却前	238	272	19.8%				258

お客さまの決算内容を表示

▲業績(損益)の推移

経常黒字先の平均値と比較して20%超上回る場合は青字、20%超下回る場合は赤字で示します。同じ経営規模と比較して、売上増加や経費削減の余地がないか、ひと目でわかります。



▲散布図(令和元年の経営規模と経常利益)

農業経営動向分析の結果をもとに、お客さまの経営規模と利益が同業者と比べてどのような水準にあるのかを示します。

※日本公庫お取引先(農業者)の決算データを集計し、業種や個人経営・法人経営別に経営動向を分析し、「農業経営動向分析結果」として毎年公表しています。上の比較データは、令和元年の集計結果の例(酪農(都府県)・法人)です。[対象業種: 稲作・露地野菜・施設野菜・果樹・施設花き・きのこ・酪農・肉用牛(肥育)・養豚(一貫)・採卵鶏・ブロイラー]。



← 日本公庫支店はここからアクセスできます

財務・課題見える化ツールのご紹介

お客さまにご提供いただいた決算情報をもとに財務状況をわかりやすく分析し、経営の課題把握をお手伝いします

日本公庫農林水産事業は、お客さまの財務状況を表やグラフでわかりやすく示す「財務・課題見える化ツール」を提供しています。

「業種平均比較シート(左)」では、お客さまの決算状況を業種平均(※)と比較して、売上増加や経費削減の余地がないか、また、農業経営動向分析の結果をもとに、お客さまの経営規模と利益が同業者と比べ

てどのような水準にあるのかなどを、具体的な数値でお示しします。個人経営・法人経営どちらのお客さまでもご利用いただけます。お申し込みは、最寄りの日本公庫支店まで、お気軽にご相談ください。なお、お客さまの決算データの推移や市況データとの比較をお示しする「時系列比較シート」については、次号でご紹介する予定です。

●利用者の声●

● お金や商品の流れの全体像を把握できたのは経営にとって大きなプラスでした。税理士任せにしていた会計・経理を自分でもしっかり把握できるようになりました。また、自分のコスト管理の判断基準もより明確になり、曖昧だった経費削減の指針ができました。(花き)

● 自社の経営を同業他社と比較できる点が役に立ちました。また、経営上の課題も見えやすく、どこを改善し、そのためにまず何に取り組みむ必要があるのか、わかりやすいです。こ

のツールを使って経営に必要な知識を習得してもらおうなど、今後は後継者育成にも取り組んでいきます。(施設野菜)

● 飼料費が増えた分について、企業努力で削減できるものなのか、客観的に把握できるデータが今までなかなか見つからなかったのですが、このツールはありがたいです。また、頭数拡大の変遷も見えやすく、通年で利益率が維持できているかなどについても可視化できました。今後も活用していきたいです。(肉用牛)

ご意見・ご感想をお寄せください

AFCフォーラムは農林漁業者、食品事業者の皆さまに役立つ誌面づくりをめざしています。参考になった記事、取り上げてほしい企画、お気付きの点など、メール、FAX、電話、郵送により編集部までお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を呈呈します。

メール anjoho@jfc.go.jp

※こちらのコードも
お使いください →



FAX 03-3270-2350

電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4
日本公庫農林水産事業本部情報企画部
AFCフォーラム編集部あて

AFCフォーラム Forum 2021.7

■編集

前田 美幸 平野 伸介 高雄 和彦
山本 晶子 大谷 香織 城間 綾子
竹中 夕美

■編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

■発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>

■印刷 佐伯印刷株式会社

■販売

株式会社日本食糧新聞社
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル
Tel. 03(3537)1311
Fax. 03(3537)1071
ホームページ
<http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/>
お問い合わせフォーム
http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

■定価 523円(税込)

◆4・5月合併号「今、食料システムを考える」で「新・農業者」を拝読。

非農家出身の山田修さんが、夫婦二人で放牧酪農をされている。中学3年から36歳の現在に至るまでの牛にかける深い情熱が成功に導いたものと感動した。

なんとなく見ていたテレビに刺激され酪農の道へ。広島から北海道、そして帰郷。3年間で500万円貯めるため、がむしゃらに仕事に打ち込み、目標を達成し、奥さまとの出会いもあり、新しい放牧方針での酪農経営のスタート。

壁にぶつかりながらも周囲の人に助けられながら、紆余曲折を早く経験されたのも大きな糧になったようだ。二人で協力しながら、夢の実現を成功させてほしい。

(広島市 巨幸男)

◆3月号「TiDBit」で地銀の上級農業経営アドバイザーの方の農業者支援が紹介されていました。

農業の六次化が推進される現在、商工分野に強い地銀の支援は不可欠です。地銀には商工分野で構築してきた大きなネットワークがあるからです。地域に根差したこのネットワークを大消費地に販路を持たない地方の生産者に開放し、支援を拡大することは三方良しとなりましょう。

また、地銀が生産者を地域の小売業につなぎ、新規の販路を提供するなど、新たな仕組みづくりもできるのではないのでしょうか。業界の枠を超えた新たな取り組みが地域の第一次産業活性化に役立つことを強く期待します。

(鹿児島市 吉見満雄)

編集後記

◆今月のテーマは地方創生。巻頭言を執筆いただいた富山和彦氏はローカルの時代の到来を明快に予測されています。また、良品計画の地域活性化事業について生明弘好氏に伺いました。コロナ禍が過ぎ去った後は、新しい風が地方への人の流れを後押ししているのでしょうか。地球規模の災いをもたらすニューノーマルが目されます。(平野)

◆周囲の騒音と空調未整備で、業務効率良好とは言いがたが家でのリモートワーク。本格的な夏到来を控え、「分散の利益」を享受しつつ自然豊かな農村でのワーケーションにとっても惹かれます。ただこれは大江教授が「特集」で触れられている通り、情報の時間的距離がゼロとなつてこの話。5Gの一刻も早い全国整備が待たれます。(高雄)

◆初めて記事の執筆・編集に携わりました。取材で伺ってきたこのすてきなお話を、わかりやすく伝えるように書くにはどうすればよいか……普段使わない部分の脳みそをフル回転させたような気持ちです。編集もまた別の難しさがあり、これまで文章を「読めて」いなかったことに気づかれました。「新農業者」と「変革は人」にあり、「ぜひ」読んでください。(大谷)

◆農業と化学肥料の不使用を貫く大平美和子さんは、上品でいつも微笑んでいる方です。「何千という人が来てくださった。うちの門をくぐった人に一人も悪い人はいないの」との言葉に感動。大平農園の野菜をきっかけにオーガニック野菜を買い求めるようになり、生ごみ肥料を利用したプランター野菜栽培も始めました。今号表紙帯は鶯色です。(城間)